

(別記様式)

令和8年度 府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（**計画段階**・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none">・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。・地域に根ざし、地域に愛される「地元の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <ol style="list-style-type: none">1 学力の向上と希望進路の実現2 学習と部活動の高いレベルでの両立3 「探究活動と研究の桂」の推進4 生徒の自主活動の推進5 地域連携や地域貢献のさらなる充実	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none">1 全教科でのICTの授業活用に加え、生徒や保護者への連絡ツールとして活用することができた。また、それに伴い教育活動の充実と働き方改革を推進できた。2 探究活動において普通科・専門学科合同の発表会を実施し、交流と対話を通じた学びを深めることができた。また、専門学科は、全国大会において最優秀賞を受賞するなど質の高い学びを実現した。3 文化祭等について、生徒会を中心とした自主的な企画・運営が実現した。また、部活動加入率についても約77%と高い水準を維持し、活発な活動が展開された。4 SNSやHP等を用いたリアルタイムな情報配信により、本校の魅力を広く発信することができた。5 保護者や学校運営協議会の意見を反映し、トイレ洋式化やLED化、空調の改修など教育環境の改善を進めた。 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none">1 普通科の系統的な探究カリキュラムの構築として、1年次での「探究の型」習得を徹底し、2年次へ円滑に接続させる学年連携の強化が必要である。2 コース選択のミスマッチ防止に向けた丁寧な情報提供と、ニーズに合致した進学指導計画・内容の再構築を図る。3 遅刻者に対する現行の指導形態を再検討し基本的な生活習慣の確立を図るとともに教職員間で頭髪・服装等の指導基準の共通理解を深める。4 全教員による授業公開を継続しつつ、参観者数を増やすとともに、教科の枠を越えた相互参観を促し、組織的な授業改善、質の向上を図る。	<ol style="list-style-type: none">1 特色ある学校づくりの推進<ol style="list-style-type: none">(1) SNSやWEBを活用したリアルタイムな魅力発信の継続と、全国レベルの研究成果を核とした地域連携・地域貢献の充実(2) 普通科コース設置5年目における教育成果の検証と、ミスマッチを防ぐための丁寧な進路情報提供の強化(3) 専門学科における高大・産学連携を生かした高度な研究活動の推進と、将来の学科改編を見据えた検討2 学習、進路指導<ol style="list-style-type: none">(1) 系統的な探究カリキュラムの確立に向け、1年次での「探究の型」習得と2年次への円滑な接続を図る学年連携の強化(2) 相互参観の活性化による組織的な授業改善と、ICT・観点別評価を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実践(3) 進学補習の在り方を検討するとともに妥協させない希望の進路実現に向けた教科指導・進路行事の密接な連携による進路指導の推進3 生徒指導<ol style="list-style-type: none">(1) 交通指導や遅刻指導の形態を抜本的に検証・改善し、全教職員の共通理解による基本的な生活習慣の確立(2) 服装・頭髪等の指導基準の再共有による社会性の向上と、挨拶運動等を通じた規律ある学校生活の推進(3) 生徒会主体の自主的活動を尊重し、行事や部活動を通じて「桂プライド」と自己肯定感を高める取組の推進4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育<ol style="list-style-type: none">(1) SNSモラルや多様な人権（LGBTQ等）への理解を深める指導の実施と、共生社会に貢献できる資質・能力の育成(2) いじめ未然防止体制の堅持と、日頃から生徒が相談しやすい関係性・雰囲気づくりの継続(3) 合理的配慮に基づく個に応じた支援の充実と、特別支援学校・医療・療育機関との組織的な連携強化5 危機管理意識の向上<ol style="list-style-type: none">(1) 安全を最優先とした教育活動の実践と、老朽化施設の計画的な修繕による安全・安心な学習環境の整備(2) 警察署や地域と連携した実効性のある交通安全指導の充実と、生徒の安全意識の向上

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	◇各分掌や各種会議の機能を活性化する。	◆校長の経営方針をよく理解し、各分掌部長は教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導く。そして、一人ひとりの教職員が学校運営を担う意識をもち、教育活動にあたる。		
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆専門学科、部活動、学習活動等の教育活動を、地域及び在校生保護者へ積極的に情報発信し、本校の教育活動への理解をさらに深める。		
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科各コースの教育内容の検証・研究を組織的に進め、本校の特色化を推進する。		
	◇学習指導要領の着実な実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させることにより、学習指導要領に基づく指導を着実に実践する。 ◆TAFSと総合的な探究の時間の実績をもとに、教科における探究活動等を推進する。		
	◇ICTの効果的な活用を推進するとともに、働き方改革を推進する。	◆「情報教育推進会議」を軸として、教職員のICTスキルの向上とデジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。また、ICTを活用し、業務効率化を推進する。		
学習指導	◇「よりよい授業」構築に向けて教科指導力の向上を図り、生徒の学力向上につなげる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえながら、全教員が授業力の向上のため研鑽を積む。 ◆授業規律の確立に向けて、全教職員が共通理解のもとで一致した指導を行い、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める環境を整える。 ◆観点別評価について、昨年度の検証結果を踏まえ、評価と指導の一体的な改善を進める。		
	◇希望進路の実現に向けて、学力の向上を図る。	◆各分掌や各教科が連携し、生徒の学力向上と希望進路の実現に向けた取組を組織的に推進する。また、教科主任会議の活性化を図る。 ◆生徒が適切にコース・科目選択を行えるよう、担任および関係分掌と連携し、生徒・保護者に対してわかりやすくて確かな説明を行う。		
	◇教科への興味・関心と学習意欲を高め、学力の向上を図る。	◆ICTの活用や主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業改善を学校全体で推進し、実践と情報共有を行う。これにより、現行の学習指導要領に沿った授業の充実と、生徒の学力および満足度の向上を図る。 ◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。 ◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。		

生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況や課題について、学年部をはじめ、教職員全体で共通認識が持てるよう、連絡・発信、相談を徹底する。 ◆服装・頭髪・交通安全指導等について、教職員間での基準の共有および見直しを通して、連携しながら指導にあたる。			
	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活において主体性を発揮できるよう、生徒指導部を中心に全教職員が連携しながら適切な指導を行う。 ◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭をはじめ、様々な学校行事において全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。			
特別活動等	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生徒にわたる基礎とする。	◆高い部活動加入率の維持と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。			
	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を重視する。			
進路指導	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。 ◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。			
	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にされた教育を推進する。	◆教育活動全般をとらえて人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせるとともに、講演会や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。			
健康・安全教育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導につなげるとともに個々の健康相談の充実を図る。 ◆保健委員会活動を通して、生徒自らが健康、美化活動などに取り組むよう指導する。			
	◇教育支援会議が配慮や支援の必要な生徒への指導の評価・改善のサポートをできるようにする。	◆配慮や支援の必要な生徒への指導のPDCAサイクルを促進させるように会議を運営する。また、関係機関との連携を図りながら、個に応じた取組を校内で組織的に行う。			
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除や美化週間などの取組を通して生徒の校内美化への意識付けを図る。			

読書指導	◇教育活動に役立つ資料を収集し、読書活動・図書館利用を推進する。	◆新入生オリエンテーションの実施や、ICTの活用によって、生徒の自主的な図書館利用の促進と読書習慣の形成を図る。			
		◆図書館を利用した教科の学習や探究活動、その他特別活動への支援を強化する。			
	◇生徒の自主活動として図書委員会活動を援助する。	◆図書委員会の活動を活性化し、読書を啓発するための取組や図書館を利用したイベントを充実させる。			
渉外・広報・事報・事務	◇広報活動を充実し、学校情報を迅速に提供する。	◆広く本校の教育活動の発信を行い、ホームページやSNS、動画などの広報資料をより充実させる。			
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆オープンスクール、部活動見学、中学校説明会等を通して、中学生・保護者等に本校の紹介を行い、適切に情報を伝え、より一層興味・関心を高める。また、新入試制度についても適切に説明する。			
	◇外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	◆保護者・PTA・学校運営協議会等との連携を深めるとともに、中学生が本校に期待し、求めるものを十分に把握して、改善すべきものには迅速に対応する。			
	◇各種奨学金制度の情報提供を行う	◆各種奨学金制度について、スタディーサプリ等を利用し、情報提供を行い、円滑な事務処理を行う。			
	◇学校施設の改修及び多面的な学習環境の整備を行っていく。	◆本校教育活動の推進及び生徒の安心・安全を第一に学校施設の改善と効率的な活用を考え、整備していく。			
研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Specialists)プログラムを深化させ、地域や社会の健全で持続的な発展を担うスペシャリストを育成する教育課程の研究開発に取り組む。			
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆新しい施設・設備を有効に活用し、課題研究(TAFS)や専門学科の教科指導、総合実習、農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。			
		◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先進的な実践を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。			
◇学校全体で研究・探究活動を推進する。	◆専門学科の課題研究(TAFS)と普通科のKRP(Katsura Research Project)や総合的な探究の時間との連携を含め、桂高校全体として研究・探究活動をさらに推進し、相互理解を深める。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	
-----------------------	--